



▲冷たい雨風が身を打つなか、ポンプ操作を行う消防団員たち。(写真②)

## 加東市消防団小隊別訓練

加東市消防団第 1,2,3,6 小隊 / 県道上鴨川木津線・播州清水寺

文化財は、その地域に暮らす人々の「郷土愛」の源泉の一角を担っています。しかし、国内では、法隆寺金堂（奈良県）をはじめとする様々な文化財が火災により失われた歴史があり、最近では、首里城（沖縄県）が、焼失しました。このため、文化財保護に向けた消火能力の向上、また緊急時における小隊間の情報伝達力、および消防団員のポンプ操作技術の向上を目的に、加東市消防団により、播州清水寺付近において、消防団員約 200 人が参加する大規模な小隊別訓練が実施されました。

水利となる越道池から約 4 基、標高差約 300 足を、1 台のポンプ車と 24 台の小型動力ポンプをホースで結び、播州清水寺駐車場まで、送水しました。送水距離が長く、標高差も大きい状況においては、ポンプ自体の操作だけでなく、それぞれのポンプを操作する分団間の連携も重要です。「ポンプ水圧 0.4 まで上がりませんか？」などと、無線で細かに連絡を取り合う消防団員たちの姿からは、自主防災という使命のために、経験と知識を積み重ねてきた様子が垣間見えました。

約 200 人の消防団員たちが繋げたホースは、水を届けただけでなく、各団員の使命感をさらに強く結びつけたようです。



▲ホースを繋げる様子。闇夜にヘッドライトと、消防団員の技術が光る。(写真①)



▲播州清水寺の仁王門を背景に、勇ましく放水。(写真③)